

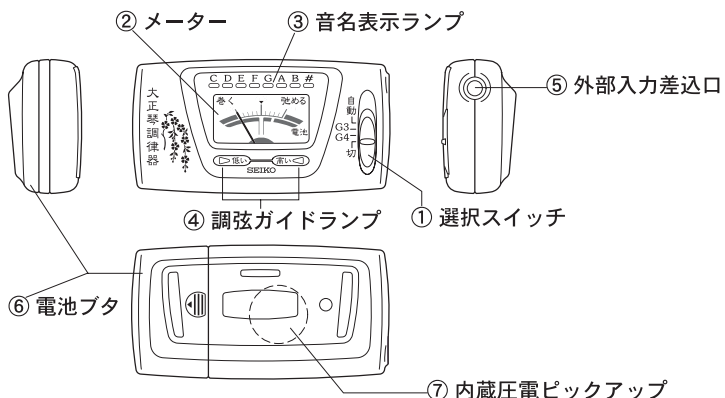
SEIKO

大正琴調律器

ST300

取扱説明書

各部の名称



* お使いにならないときは、選択スイッチ①を必ず「切」にして下さい。

調律のための対応表

これは、大正琴の種類と調律される「弦」と「選択スイッチ」の位置を「対応表」にしたものです。

大正琴の種類	「弦」の種類	「選択スイッチ」の種類	調律する「音」
ソプラノ 大正琴	「1番線」「2番線」 「3番線」	「G4」	高い「G」の音
	「4番線」	「G3」	低い「G」の音
	「5番線」	「自動」	「C」または「D」
アルト大正琴	「アルト弦」	「G3」	低い「G」の音
	「アルトの5番線」	「自動」	「C」または「D」
テナー大正琴	「テナー弦」	「自動」	「G」
ベース大正琴	「ベース弦」	「自動」	「D」

調弦の方法

ご使用前に、付属の電池の包装を取り除いて、裏面の「電池交換のしかた」の手順で、電池を入れて下さい。調弦を行う時は顔を弦に近づけすぎないようにして下さい。不意に弦が切れた場合、思わぬケガの原因となります。

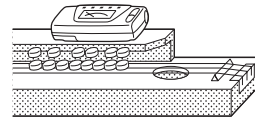
1. スイッチの説明

「選択スイッチ」の位置	調律できる「音」
「切」	電源が入っていない状態
「G4」	高い「G」の音
「G3」	低い「G」の音
「自動」	「C」～「B」のすべての音(12音)

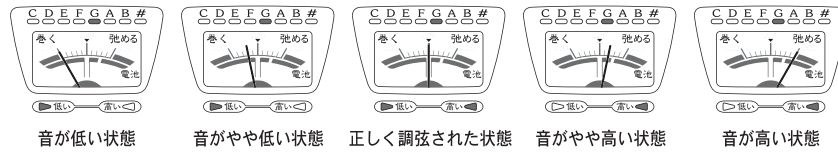
2. 調弦の手順・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 1番線～4番線の調弦

- 1) 1番・2番・3番線を調弦したい時は、選択スイッチ①を「G4」に合わせて下さい。
4番線を調弦したい時は、選択スイッチ①を「G3」に合わせて下さい。
メーター②の針が動き、電池の残量をしばらくの間（約2秒間）表示します。
（詳しくは電池残量表示の項を参照して下さい。）
音名表示ランプ③のGが点灯します。
- 2) 調律器本体を図のように大正琴の天板の上に直接置いて下さい。（*この調律器は、内蔵圧電ピックアップ⑦があなたの大正琴の音の振動を感知して反応します。）
- 3) 弦を弾いて下さい。
- 4) 調弦ガイドランプ④の指示に従って弦を巻いたり弛めたりして下さい。弦を「巻く」と音は高くなり、弦を「弛める」と音は低くなります。合わせたい音は近くなりますとメーター②の針が動き出します。（下の調弦状態図Ⅰを参考にして下さい。）



●調弦状態図Ⅰ

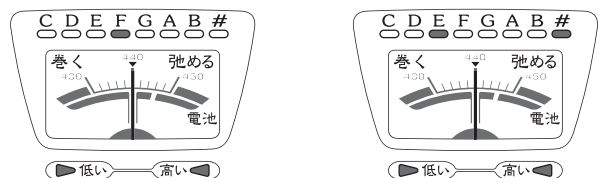


- 5) 調弦ガイドランプ④が2個同時に点灯すると調弦完了です。（より正確に調弦するには、メーター②の針が中央に位置するように調弦して下さい。）

(2) 5番線の調律

- 1) 選択スイッチ①を「自動」に合わせて下さい。「切」の状態から合わせた場合は、電池残量を表示します。
- 2) 弦を弾いて下さい。音名表示ランプ③が点灯し、弾いた音の音名を表示します。
- 3) 合わせたい音の音名表示ランプ③が点灯するように、弦を巻いたり弛めたりして下さい。
合わせたい音の音名表示ランプ③が点灯したら、次は調弦ガイドランプ④とメーター②の針の状態を確認して下さい。
- 4) 前項の調弦状態図Ⅰを参考に弦を巻いたり弛めたりして下さい。（音名表示ランプ③は合わせたい音の音名が点灯。）
- 5) 合わせたい音名表示ランプ③が点灯し、調弦ガイドランプ④が2個同時に点灯すれば調弦完了です。（より正確に調弦するには、メーター②の針が中央に位置するように調弦して下さい。）（下の調弦状態図Ⅱを参考にして下さい。）

●調弦状態図Ⅱ



*ご注意

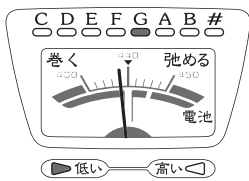
6弦式大正琴の場合、1番・2番・3番線を調弦したい時は選択スイッチ①を「G4」に、4番・5番線を調弦したい時は「G3」に合わせて下さい。6番線を調弦したい時は「自動」に合わせて下さい。

(3) 基準ピッチの調整について

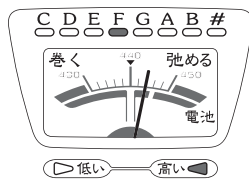
通常の調弦は、基準ピッチ（音程）をメーター②の表示（430から450の目盛り）の中央の440で合わせます。（この「440」は「440Hz（ヘルツ）」といって、音を周波数で表わした時、基準になる音「A」を440Hzに合わせることをいいます。）演奏する「曲想」や他の楽器とのアンサンブル（合奏）に必要な時などは、「440Hz」以外に合わせる事があります。

- 1) 基本操作は、G 3 , G 4 を合わせる時や自動の時と同じです。
- 2) メーター②の針が合わせたいヘルツ (例えば442) にくるように、弦を巻いたり弛めたりして下さい。
- 3) 合わせたい音名表示ランプ③の音名が点灯し、針が合わせたいヘルツの所にあれば調弦完了です。この時、調弦ガイドランプ④は2個同時に点灯しません。下の調弦状態図 III を参考にして下さい。

●調弦状態図 III



基準ピッチ438で「G」の音を調弦した状態



基準ピッチ444で「F」の音を調弦した状態

(4) 電気大正琴をお持ちの皆様へ

電気大正琴を調弦する場合、次のいずれの方法でも調弦することができます。

- (a) 調律器本体を大正琴本体の天板に置いて調弦する。
- (b) 接続コードで大正琴と調律器を接続して調弦する。この時、大正琴本体の「出力口」と調律器の外部入力差込口⑤を市販の接続コードでつないで下さい。

電池残量の確認

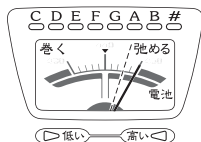
電池残量は、2つの方法(手動方式、自動方式)で確認することができます。尚、電池を交換する時は、必ず選択スイッチ①を「切」の状態にしてから交換して下さい。

1. 手動方式による確認

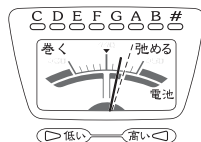
- 1) 選択スイッチ①を「切」から「G 4」、「G 3」、「自動」いずれかに合わせて下さい。
- 2) メーター②の針が動きます。針がしばらくの間(約2秒間)止まり、電池の残量を確認できます。

この時、メーター②の針が下の図のように点線より左側にある場合(例2)は、電池の残量が少なくなっていますので、新しい電池と交換して下さい。

●電池残量表示図



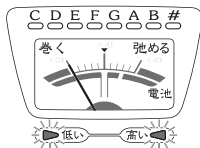
(例1) 正常な電池



(例2) 残量の少ない電池

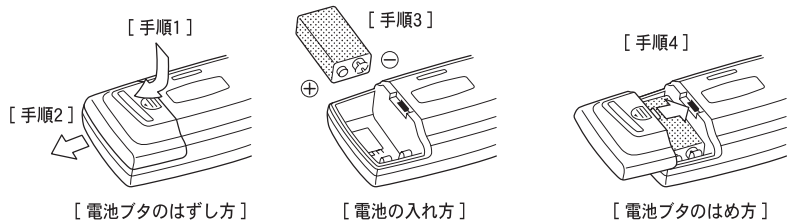
2. 自動方式による確認

ご使用中、調弦ガイドランプ④が同時にチカチカ点滅を始めた時は、電池の残量が少なくなっていますので、新しい電池と交換して下さい。(この状態では調弦の動作は停止します。)



電池交換のしかた

電池ボタン⑥をはずし、+ - を間違えないよう注意して電池を入れます。

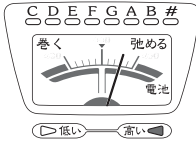


調弦時のご注意（こんな反応がでたら）

大正琴の音を鳴らしていないのに、メーター・音名表示ランプ・調弦ガイドが下の図のように反応した状態になることがあります。故障ではありません。

大正琴の音を鳴らして頂きますと、正常に調弦できます。

* 原因は、周囲の電気機器やそのコード類より発生する強いハムノイズ（電波的な雑音）を拾ったり、周囲の楽器やアンプなどの音を感知するためですが、ご自分の大正琴の音を鳴らして頂きますとその音だけを感知するようになります。



製品仕様と付属品

1. 製品仕様

- 調律範囲 A0 (27.5Hz) ~ C8 (4,186Hz)
- 調律精度 ± 1 セント
- 調律モード G 4、G 3、自動
- 表示 LED : 音名表示、セントガイド
メーター : セント表示
- 端子 外部入力差込口、内蔵圧電ピックアップ
- 電源 9V 乾電池 1 個
- 付加機能 電池残量表示機能
- 外形寸法 124mm(W) x 65mm(H) x 36mm(D)
- 重量 154g (電池込み)

* 規格および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

2. 付属品

- 巾着ソフトケース
- 取扱説明書
- 9V マンガン電池

* 付属の電池は機能確認用ですので、寿命が短い場合があります。